

読者の皆様へ

本書は、酒を詠よんだ漢詩（飲酒詩）三十首について、気ままに語り合った対談集です。各篇の冒頭には、その詩のキャッチコピーと、タイトル、詩人、詩の書き下し文と原文、現代語訳を示しています。「漢詩」を読んではから「対談」を読んでいただけでもよいですし、あるいは、先に「対談」を読んでいただけでもかまいません。そんな風に、気軽に読んでいただけるよう心がけました。漢字は基本的に新字体を使用し、ふりがなも多めに付けてあります。一部分しか紹介できなかった長い詩については（部分）と記し、末尾の「付録」に全詩を掲載しました。本書は、二〇一〇年六月から『酒文化』（酒文化研究所発行）に連載している「漢詩酔談」が元になっています。「漢詩酔談」は同研究所の山田聡昭氏が名付け親で、今回、書名に使用することを快諾してくださいました。ありがとうございます。また、話題にのぼった日本のお酒に対して、写真の掲載に快くご協力くださいました酒造会社のかたがた、中国酒の写真撮影にご協力くださった中国のかたがたに、この場をお借りして厚くお礼申し上げます。

二〇一五年四月二一日

串田久治・諸田龍美

目次

読者の皆様へ iii

一 宴のはじまり 1

和楽—おもてなしの心 「鹿鳴」詩経 2

◆おつまみ ①儀狄と杜康 8

朝酒の効用 「卯時の酒」白楽天 22
妻への詠び状 「内に贈る」李白 28
酒造り名人への挽歌

「戴老の酒店に題す」李白 34

グンディズム 「長安道」儲光羲 40

悉酔い

二 酒のよろこび 9

今を楽しむ—中国的快樂主義

「西門行」漢代樂府 10

酔っぱらってこそ 「酔中の作」張説 16

「金山寺にて柳子玉と飲み大酔す」蘇東坡 46
上戸と下戸 「飲酒 其の十三」陶淵明 52

◆おつまみ ②白酒の醸造へ」 58

三 あこがれの陶淵明 59

酒の前ではみな平等

「山中にて幽人と対酌す」李白 60

三友—酒と琴と詩と 「北窓の三友」白楽天 66

老いらくの酒 「惜しむ可し」杜甫 72

虚飾を捨てる 「陶淵明」劉克莊 78

原点回帰 「戯れに鄭溧陽に贈る」李白 84

独酌もまた一興

「陶潜の体に効う詩 其の五」白楽天 90

空の杯を持ち歩く

「陶の飲酒に和す 其の一」蘇東坡 96

達人の飲酒 「飲酒 其の一」陶淵明 102

◆おつまみ ③白酒の醸造へ」 108

四 漢詩歳時記 109

一月 お屠蘇 「元日」直江兼統 110

二月 春節 「元日」王安石 116

三月 春風に誘われて 「少年行」李白 122

四月 清明節 「清明」杜牧 128

五月 春爛漫 「江南の春」杜牧 134

六月 晴耕雨飲 「連雨独飲」陶淵明 140

七月 暑氣払い 「暑中閑詠」蘇舜欽 146

八月 避暑山莊にて

「暑を山園に避く」王世貞 152

九月 重陽の節句

「九日 齊山に登高す」杜牧 158

十月 名月に乾杯! 「水調歌頭」蘇東坡 164

十一月 晩秋の酔貌

「酔中 紅葉に対す」白楽天

十二月 爛酒

「冬日田園雜興 其の八」范成大

◆おつまみ ④紹興酒

176 182

五 再会を期して 183

「サヨナラ」ゲケガ人生?

「酒を勧む」于武陵

◆おつまみ ⑤汾酒と茅台酒

184 190

付録 191

カパー・本文
イラスト
山本重也

一 宴のはじまり

まずは酒を楽しむ極意を、中国
最古の詩集から学びましょう。気
の合う仲間も、お客さんも、みん
な一緒に「和やかに楽しく」飲め
ば、お酒もいっそう美味しいはず。



和楽—おもてなしの心

鹿鳴 (部分)

『詩経』^①

② 呦呦として鹿鳴き

呦呦鹿鳴

野の芍を食らう

食野之芍

③ 我れに嘉賓有り

我有嘉賓

瑟を鼓し琴を鼓す

鼓瑟鼓琴

瑟を鼓し琴を鼓し

鼓瑟鼓琴

和楽すること且つ湛し

和楽且湛

我れに旨き酒有り

我有旨酒

以て嘉賓の心を燕楽す

以燕楽嘉賓之心

① 中国最古の詩歌集。

紀元前一〇〇〇年から前六〇〇年ごろの歌が収められている。この詩は周王朝の宴席でうたわれたもので、全三章あるうちの第三章。全詩は卷末一九二頁。

② 鹿の鳴き声。仲間を呼ぶ声。

③ 「瑟」は、二十五弦から五十弦の大型の琴。「琴」は、五弦から十三弦。

◇◇◇◇◇ ユウユウと 鹿は鳴き

友を集め 野の草を食べる

◇◇◇◇◇ わが御殿にも お客様を招き集め

◇◇◇◇◇ 瑟を鳴らし琴を鳴らして おもてなし

◇◇◇◇◇ 麗しい演奏を お楽しみいただき

◇◇◇◇◇ 和やかに心ゆくまで ご歓談あれ

◇◇◇◇◇ とっておきの旨酒を ご用意しました

◇◇◇◇◇ 存分に 宴をお楽しみくだされ

諸田 三千年程前の、周王朝の歌です。明治政府が建てた鹿鳴館^④、その名の元に

なった詩です。

串田 「日本は文明国だ」とアピールするために、国家の威信を賭けて建てた洋館^⑤です。ね。

諸田 外国からのお客様を「おもてなし」する社交場ですから、さぞかし豪華絢

④ 武王が殷王朝（前十七世紀〜前十一世紀）を倒して立てた王朝（前十一世紀〜前三世紀）。

⑤ 明治政府は、日本が文明国であることを示そうと、外国使節を接待するための社交施設としてこれを建設し、明治十六年（一八八三）に完成。欧化政策の象徴であるこの洋館は、昭和十五年（一九四〇）に取り壊された。